

第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	株式会社ラポール	施設名	介護付有料老人ホーム らぽーる上尾
発表タイトル	LIFE データの活用で自立支援 ～ フィードバックデータの活用を多職種で考えよう ～		
研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・LIFE のフィードバックデータの活用を見いだせずにいた。 ・介護職中心でLIFE の対応をしていたが、『全社で取り組もう』と意識改革を行いLIFE 委員会を発足。多職種で本気で取り組みを開始。 ・実際のLIFE のフィードバックデータは全国の平均値が分かるだけで、PDCA サイクルを回す、活用をして質の高い介護の実践に繋がれているとは思えない実態があった。 		
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・LIFE のフィードバックと施設のデータが比較照合できるように施設用データを用意。 ・経過と効果が分かるように「LIFE アセスメントシート」を独自で作成。 ・職員の教育、ご入居者向けのセミナーを開催し、全社で自立支援に対する取り組みを実施。 ・データを活用することで施設理念の浸透も図ることができた。 		
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> ・LIFE 委員会を発足。 ・各専門職でフィードバックデータを用いて様々な仮説を立てて検証。 ・介護システム、見守りシステムから得られるデータを用いて、LIFE アセスメントシートに落とし込み経過の見える化を図る。 ・実際に取り組みを行う現場スケジュールは現場介護職が中心となって考え継続性のあるものを作成。 ・職員の教育、ご入居者向けセミナー、施設行事など、様々な場面で自立支援に関する意識づけを行う。 		
成果・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックデータの活用方法を見出すことができた。 ・加算算定要件にあるPDCA サイクルを回すことができるようになった。 ・データに基づいた根拠のある介護、質の高い介護の実践ができるようになった。 ・全社で取り組み施設理念の浸透まで図ることができた。 		
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の平均値がフィードバックされるが施設の平均値と比較できるようにデータを算出する必要があり、一目で照合できるような資料を用意することで活用できた。 ・自立支援に関する取り組みスケジュールは現場職員が中心となって作成することで、継続性・実効性のあるものが完成した。 ・LIFE アセスメントシートでデータ管理することで、一目で経過を確認することができるようになった。 ・データの利活用をすることで根拠のある介護の実践ができるようになり、「なぜ、そうなのか」介護職が説明できるようになった。 ・職員研修やご入居者セミナーを定期的に行うことで、施設全体に自立支援に対する取り組みを浸透させることができた。 		
アピールポイント 伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・LIFE に関しては全社で取り組みを行い本気で活用する必要がある。 ・根拠のある介護が実践できるようになり、ご入居者が元気になることで介護職員のやりがいにもつながることができた。 		